

シリーズ

名演探訪 ～日本の合唱

2

「月光とピエロ」

早川 功

令和5年(2023) 2月28日

click [Isao Hayakawa 集まれ合唱!](#)
facebook公開グループ「集まれ合唱！」
に連載したものをまとめました

清水脩の「月光とピエロ」。戦後の合唱振興はこの作品から始まったと言っても過言では無いでしょう。

堀口大学の印象的な詩に作曲された1947年に発表された「秋のピエロ」が翌年の第1回の全国合唱コンクールの男声課題曲に選出され高い評価を得たことから、堀口の詩集からさらに4篇を選出し、5曲の組曲として1949年に作曲者自身の指揮により初演されました。そしてその普及に貢献したのがシリーズ①「枯れ木と太陽の歌」で紹介した東京コラリアーズでした。

東コラの指揮者であった福永陽一郎はこの作品を全国で300回以上演奏したと語っています。10年間でですよ。それにより1960年代にはこの作品を知らない合唱関係者は皆無と言う状況となり、演奏に挑戦するアマチュア合唱団が増大したのです。

無伴奏男声合唱曲の方向性を定めた記念碑（後に混声版も作られましたが、調性が下げられており、本来の響きはやはり男声と言うことになるでしょう）として不滅の存在感を持つ作品だと思います。

男声合唱組曲「月光とピエロ」

作詩：堀口大學

作曲：清水脩

指揮：福永陽一郎

合唱：同志社グリークラブ



<https://www.youtube.com/watch?v=U8t979hBXTI>

東コラ消滅後も福永先生（恩師なのでやはりこう呼びたいと思います）は大学合唱団などで生涯この作品を愛し、演奏し続けました。特に1962年から顧問指揮者の座にあった同志社大学のグリークラブとの演奏に先生の思い出が強く感じられます。学生ならではのひたむきさと練習に臨むエネルギーは日本の合唱発展の原動力であり、それを生涯求めたのが福永陽一郎という指揮者でした。その同志社グリーとの1989年6月のライブ演奏を紹介します。福永先生の晩年、最後の東西四連でのステージで、場所は東京文化会館でした。同席していた指揮者・小林研一郎をして「陽ちゃんはついにフルトヴェングラーになった」と言わしめた入魂の名演。

【シリーズ バックナンバー】

- 1 男声合唱組曲「枯れ木と太陽の歌」
- 2 男声合唱組曲「月光とピエロ」
- 3 男声合唱組曲「柳河風俗詩」
- 4 女声合唱組曲「美しい訣れの朝」
- 5 女声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」
- 6 混声合唱組曲「嫁ぐ娘に」
- 7 混声合唱、ヴィブラフォン、ピアノのための「動物の受難」
- 8 混声合唱組曲「島よ」
- 9 男声合唱組曲「水のいのち」
- 10 男声合唱のためのカンタータ「土の歌」

[Back](#)[音楽・合唱TOPへ](#)[Home](#)[HOME PAGEへ](#)